

20170625 「ローマで殉教するパウロ」

目標：パウロの最後の様子を教師から聞き、自分の生涯の最後をどのように迎えたいか考える。

聖書箇所：ローマ 15：13-33 時間：10分

暗誦聖句：「わたしが世を去る時はきた。わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした」（Ⅱテモテ 4：6～7）

道具：ホワイトボード、ペン

対象者：中3×1 中1×1 小6×1 小5×3 小3×1 小2×1 小1×2 未就園児×2

留意点：テーマから、聖書よりムラトリ正典目録の内容に触れる傾向が強くなるだろう。あくまでムラトリは聖書の御言を浮き彫りにするために用い、聖書の御言が残るように留意する。

段階	時間	教師から	子供に予想される反応	備考
課題確認	2分	皆さんは、自分が死ぬ時のことを考えたことはありますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ある ・ない。 	先日、歌舞伎の有名人の奥さんがガンで亡くなった事などを導入で用いてもいい。その長男が自分たちより低学年であることに触れるのも、本時の導入として、課題を考えるためにはあり得る。 教師の実体験の挿入。 考えたことのない子どももいるだろうが、教会では、このような重要なテーマが、必要な時には語られる事が大切だと考える。死は勝利に飲まれてしまったとパウロ自身言っているからには、希望を抱いて向き合うべきである。 死を意識させることは、クリスチャン二世が救いを求めるためには大変に重要である。 今までのCSの学びとのつながりをここで提示する。
課題探究	6分	<p>先生は、小学4年生の時、唐突でしたけど、自分もいつか死ぬんだなあと、思っ、底知れない怖さを感じたことがありました。</p> <p>今まで学んできたパウロさんの生涯も、最後の時を迎えます。 今日開いていますテモテの第二の手紙は、パウロさんが亡くなる2～3週間前に書かれたとされていて、別名パウロの遺言と呼ばれたりする書簡です。 パウロは最後、斬首だったと言われています。 その少し前、牢屋で死刑を待っている時に、（暗唱聖句）のような言葉が出てくるのは、なぜなのでしょう、と思いますか。</p> <p>みんなもいつかは天の御国に帰ります。そのとき、パウロさんのように、やるだけのことはやったと言えるような、そういう生き方をしてほしいと思います。 カトリックの修道院に、「メント・モリ」と言う言が飾ってあったそうです。 どういう意味か知っていますか？</p> <p>人は、自分が死ぬ存在なのだとして始めて人として生きていけると言う事で、飾っていたそうです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・解らない ・やるだけのことをやったから ・悔いが無いから 	<p>ここでパウロの本書までに至るいきさつを、ローマでの軟禁（ローマ15）から説明する。解放され、スペインまで宣教旅行に行き、再逮捕、現在に至ったのである。</p> <p>死をにしたらあり得ないような、すがすがしさに気づかせたい。</p> <p>イエスの救の故に、やるだけのことをやった満足がここにはある。そのような満足した死を迎える人は少なく、我々には救われた感謝に突き動かされて主の技を行っていく人には、このような死が与えられるのである。</p> <p>再臨については、一考に値するのだが、今回は、よほどのことが無い限り触れない方が、テーマに向き合えると思う。</p> <p>以下は時間があれば触れることにする。</p> <p>何度か子どもたちに語ってきてはいるのだが、恐らく出ないと思われる。教師側からサポートしたい。</p>
まとめ	2分	<p>パウロさんは、イエス様に救われて、以来全力でその恩に報いようと努めてきた人だと思います。私達も、神様の恵みに、生かされていく歩みをするなら、達成感のある最期を迎えられるのです。</p> <p>暗誦聖句</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・知らない ・汝、死を覚えよ 	<p>189号のテーマ「神の恵みに生かされる」からの反映。子どもたちには、死を迎えるということは想像しにくいだろうが、しかし人の最大の問題であることは動かぬ事実である。どんな人生に進んでも、神と人ともに喜ばれる良い歩みを促したい。</p>